

ご門主様が佐用組にご巡教



十一月三十日、十二月一日の両日、即如門主の佐用組ご巡教が行われた。ご門主様は三十日正午に行事寺院の法覚寺(服部正院住職)にご到着。参道には組内寺

院、門信徒挙げてのお出迎えに笑顔でこたえられた。ご昼食のあと帰敬式、式典と進みご門主様より「現代社会の中に生きる人生にとって真実である南無阿弥陀仏こそ私の命のよりどころとなって下さいませ」とご親教をいただき、参拝者一同、身近にお話をされるご門主様の一言一言を感動の様子でかみしめた。

午後八時半すべての日程を済ませ佐用郡上月町のホテルで宿泊、翌日は常徳寺、光福寺をご巡回され午後四時ご帰山された。ご門主様のご親教の内容は次の通り。

ご門主様、佐用組をご巡教

「お念仏こそよりどころ」

教区だより		1月	
10日(火)	近畿同朋運動推進協議会役員会	24日(火)	同兵宗連役員会 のじぎく会館
14日(土)~16日(月)	別院常例 佐々木良憲師(神戸東組専念寺)	25日(水)	教区保育連盟理事会 2時~
18日(水)	教区寺族婦人会連盟委員総会	26日(木)	教区門徒総代会役員会 10時半~
19日(木)	住職・寺族組同朋講座講師研修	28日(土)	寺族婦人連続学習会 ③ 10時半~
20日(金)	教区仏婦連盟常任委員会	28日(土)~29日(日)	第三連区門徒推進員研修会 京都・洛兆
22日(日)	別院仏婦報恩講 小滝教務所長	30日(月)	教区仏婦連盟委員総会 10時半~
	教区仏壯連盟理事会		連研検討部会 10時半~

◆11月27~29日 神戸別院報恩講、講師は佐々木徹昭師(福岡教区夜須組)教区内より多数のご出勤法中や団体参拝をお迎えし盛大に厳修された。衆人の方々の奏でる雅楽の中、法要が始まると、お隣のお同行とのおしゃべりも念仏となる。◆12月2~3日 豊岡教堂報恩講、講師は京都教区より岡橋聖舟師。教堂主管の小滝教務所長の導師で城崎組内の住職の方々でお勤めされ、毎座百人近いお参りにぎわった。◆7日 別院仏婦常例、講師は赤松義光師(網干組政源寺)「いいお説教にあいました」とおばあちゃん◆12日 午前十時半より社推協常任委員会。社会福祉推進の「ステッカー」一月々のことば」等について協議◆午後一時半より社推協、ビハーラ部会、代表者会議。話し合いの結果ビハーラ啓蒙に関する研修会を二月三日に予定することとなった。◆14日 仏婦委員総会を別院で開催。三十周年記念大会報告と反省、会計中間報告、第九回世界仏

教婦人会大会についてなどを協議。終了後昼食懇親会も持たれた。◆14~16日 別院常例法座、講師は藤栄行信師(淡路組宣徳寺)「ありがたいご縁じやった」と帰りながらお同行◆15日 青僧会研修会が「縁起と業」と題して武内紹晃師(阪神西組浄専寺)を招いて今回と二月の二回に分けての研修となった。その縁起についてのお話の中で「私はいつも思うのですが、仏教は常に『人生はどのようなあり方か』という設問にはじまるのであって『どうして起こってきたか』を尋ねるのではありません。そうすると、縁起ということが、その解答として『縁起って起こっている状態』なのだということと与えられるのです。二十五人の参加者全員それぞれに深い感銘を受けた。◆19~20日 京都の本山近くの旅館「洛兆」で第三連区基幹運動推進研修会が開催された。兵庫教区からは教務所長、教区相談員、基推委副会長の佐々木智見氏、総代会々長の田寺健三氏が代表で出席◆21日 本派矯正教化連盟兵庫支部の研修会が別院で開催された。講師は河野一雄師(姫路少年刑務所長)。

生前のご苦勞を偲び、謹んでお悔み申し上げます。(敬称略)

城崎組専念寺前坊守 山本富美子	11月26日
神戸東組光園寺住職 神戶東組浄福寺住職 四茂野周芳	11月30日
新宮組浄福寺前住職 依藤 祐峰	12月3日
養父組西願寺前住職 川本 憲順	12月7日
水上市組浄福寺住職 沢田 謙了	12月9日
姫路中組善養寺前住職 江尻 義純	12月19日



お念仏の友の輪 阪神東組コーラス部

組画変更後間もなく、十一月一月に阪神東組若婦香華コーラス部が発会いたしました。仏教讃歌を歌うことによつて真宗婦人としての自覚を高め、み教えに生かされるよろこびを味わい、お念仏の友の輪が広がり、会員相互の親睦を深める一助となればとの思いから発足いたしました。組内の若坊守を核として、若婦人会があります。その若婦の有志で形成され、会員数は六十余人であります。月に一、二度、組内の源

ある新聞記事で「ああ、定年後のこの仕打ち」夫と妻との力関係逆転「わが家での居場所のなさを嘆く。ぬれ落ち葉、族の憂うつな日々を——」◆この「ぬれ落ち葉、族」というのは、中高年男性を、掃いても掃いてもほうきにまとわりつくぬれ落ち葉にたとえた造語だそうだ。この言葉から、いろいろなことを考えさせられた。◆私たちは、人やものとの出会いの中で、愛を知り、喜び、あるときは、怒ったり、憎んだり、悲しんだりしつつ、社会の中で生きていくのである。新聞記事は「おかげさま」を忘れた自己中心的で、自分本位な姿——生き方だと思われる。今まで生かされてきたということに気付いていないのではないか◆私たちは、生かされている自分を喜び、心の底から「ありがたうございます」「ありがたうございませう」と、いえる人生を歩ませていただき、これこそ、浄土真宗のみ教えであり、私たちの学ばねばならぬ生き方があるのではなからうか。(光森宣明)

HOYOG 教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所 〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号 (本願寺神戸別院内) 電話 神戸(078)341-5949(代) [編集] 教区基推委広報部 1989. 1. 18号

(1ページから続く)
にあたって下さった組長様、ご住職様をはじめ関係の方々に深く感謝いたしております。

まず、はじめに当地でお念仏に導かれ力づくのご一生をすごされた先人の方々のことを思い。お寺を守り支えて下さった方々のご苦勞に感謝したいと思ひます。

わが身はなれず

お念仏の朋が急に増えた室町時代、戦乱に巻き込まれた戦国時代、世の中が固まっていった江戸時代、そして明治維新以後今日まで世の中の移り変わりの中で先人の方々はご苦勞をかさねられました。今、お寺は何のためにあるのでしょうか。



ご親教のご門主様

くなっております。ただわべだけをとりつくるって人生、苦しみにおしつぶされた人生で終わってしまえば誠に残念なことです。

の悪い言葉にされてしまうというところであります。これは大変な誤解であり、残念なことでもありません。

ものたたりを恐れたり、ある特別の日や角を恐れたりするのは、南無阿彌陀仏はインドの言葉ですから、今日の日本であればカタカナで済むはずです。親鸞聖人はその意味をとって帰命尽十方無碍光如来と書いたり帰命無量寿如来、等々あらわされました。皆様正信偈の始めの二句でよくご承知のところ、その意味は光りと

命にかぎりのない如来に帰依する、お任せする。その教えに従うと言うことであります。これほど力づくでもなく、善根をつむぐとでもありません。

調子がよければ思い上がり悪ければ悲観してしまう人間の姿が見捨てておけないからであります。か

宗祖親鸞聖人のお言葉に耳をかたむけ聖人のご生涯に学びたいと思ひます。

親鸞聖人は私達、難しい人生、明日のこともさだかでない人生を生きるものが、本当によるべき道、それによって生き、それによって死ぬことのできるみ教えをお示し下さいました。

今日の日本ではあふれるように現れる商品の数々に目を奪われ、心奪われて命そのものを見ることが難しくな

合い、うやまい合って歩むようにならねばなりません。親鸞聖人が教えて下さったのは、厳しい戒律を守ることもなく、善根をつむぐこともありません。

阿彌陀如来のお心、南無阿彌陀仏であります。それは時と所を選ばず全ての人間に与えられるものです。

わることのない真実、私の姿をすべて見抜かれた、真実である南無阿彌陀仏こそ私の命のよりどころとなつて下さっています。

最近私が耳にいたしますのは、南無阿彌陀仏が悲しい時恐ろしい時にだけ称えるものとなり、はては縁起

時にはお金こそ思う時もあるのではないのでしょうか。そしてどれもあてにならないと知った時目に見えない

ところが阿彌陀様のお心は私の都合でつかんだり、捨てたりするのではなくて



今、お寺で

人間の痛みに、念仏の中で「なにを聞くか」が課題

人と人との出あいには不思議である。昭和二十年代のはじめ、民生委員として福祉の世界に足をふみ入れ、身をさらすことになった。食うや食わずの空腹が当り前であった。ひとりがひとり、今日までの食のためには、何でもしないことには生存が危い。お互いが地獄の青鬼になって煩惱の火を燃やした。民生委員としての出発のころを思い出しては、現代の福祉の様相は、飽食、嫉妬、孤独感、人間不信、存続不安等がわいている。隣りは何をやる人ぞより、隣りの人よりわが生命。昨日の人の身が、今日のわが身であらう。

仏しての声を聞き、第一章を黙読して立ち直るきっかけを与えられた。底知れぬ地獄一定の発見と、朗々たる自然法爾の道は、どこでどうつながっているのか微妙深きと思う。

現実事実としてあらわれる福祉課題は、時代と共に変化し絶ゆることはない。例えば独居老人の老の心情は底が深い。肉親の縁の薄きことは、老人を孤独の海に投げ入れる。老人の発する言葉は、力弱く遠き彼方に通じない。老人病院、その他の施設で静かに息を引きたる老人は、社会の裏側でひっそりと増加の度を加えるであらう。

活動に参加したいと思つてから「心残り」は私を受け継ぐから心配しないで」と介護者。そこに有縁、肉親の姿がない言葉がないのが残念。介護者はこのやりとりを経験すると、ひと回り大きくなるそうである。

「あなたは悩みますか」

青僧会が神戸で街頭伝道

年の瀬の十二月十九日(月)、兵庫教区青年僧侶の会の街頭伝道が、神戸元町・大丸前で行われた。

この街頭伝道は、青年僧侶としての自己の研鑽・社会的な教化活動の実践という、青年僧侶の会発足の目的にそつて、昭和五十四年から行われ、今年で十年目も参加している。

年末介護の実態についての感想を、それに従事されている、お医者さん看護さんの感想を、拾い読みすると、終末における老人との交流は、黙って手を握る。言葉では「ありがたう」「お世話になったなあ」ではお

先きに」と老人。「私も行くからね」「心残り」は私を受け継ぐから心配しないで」と介護者。そこに有縁、肉親の姿がない言葉がないのが残念。介護者はこのやりとりを経験すると、ひと回り大きくなるそうである。

活動に参加したいと思つてから「心残り」は私を受け継ぐから心配しないで」と介護者。そこに有縁、肉親の姿がない言葉がないのが残念。介護者はこのやりとりを経験すると、ひと回り大きくなるそうである。

活動に参加したいと思つてから「心残り」は私を受け継ぐから心配しないで」と介護者。そこに有縁、肉親の姿がない言葉がないのが残念。介護者はこのやりとりを経験すると、ひと回り大きくなるそうである。

反対に阿彌陀様が私をつかみ取つてはなさないとおっしゃるのです。良い時も、悪い時も常に我が身をはなれずついて下さるのが南無阿彌陀仏です。

私が迷うのです

今日の複雑な世の中を考えると、日本の国の豊かな繁栄のかけには戦乱、飢饉に苦しむ人々があり、差別に苦しむ人々があります。科学技術の発展のうしろには人間らしい心が奪われ、地球の美しい水や空気が汚されています。

そしてその根本には私の煩惱すなわち、欲望があるのです。今、私にとって何が一番大切なのかを阿彌陀様のお心み教えに耳をかたむけつつ考える時が来ています。

私達の宗門では伝統にあまゝ、情性に流されやすい私達のあり方を反省し、親

親鸞聖人のお心を実現するために「念仏の声を世界に子や孫に」のスローガンと共に門信徒会運動、同朋運動を基幹運動として展開しています。

昔からご法義が盛んであったと言われる地域で人口が減つたり、お参りが祖先参りになりかけたりしています。人口が増えた大都市では浄土真宗のお寺が少なかったり、核家族化したりで仏法に耳をかたむける人の数は多くありません。

皆様のまわり、大都市へ出られたご家族の方々はいかがでしょう。か、まず大切な私達僧侶、門徒を問わず我が身のこととして仏法を聴聞することです。

本日のご法座をご縁に心のつながりを深め、共にお念仏の道歩むことができますよう念じまして私の話といたします。

門徒推進員と一体になったものであり、推進員の方々の熱心な取り組みに頭が下がる」と話していた。約二時間の街頭伝道を終え、参加者は別院に移動して話し合いを行った。その中で「道行く人は案外受け取ってくれた」というような

実践を大事にしたい」などの声とともに、「会員の参加が少ない」「パンフレットの内容を今後検討すべきだ」など、今後取り組むべき課題が指摘された。なお、街頭伝道は二月にも、姫路駅前で行われる予定。

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所 本願寺神戸別院(モタン寺)

教務所長	小滝 了信
幹事・副幹事	藤 永 弘 暁
幹事・参勤	勝 島 徹 正
録事・参勤	北 村 昌 康
録事・参勤	安 井 秀 頭
録事・参勤	菅 野 弘 和
録事・参勤	竹 内 英 昭
録事・参勤	尾 井 秀 瑛
録事・参勤	高 藤 昭 文
録事・参勤	松 崎 了 忍
書記・承任	山 崎 泉
書記・補	松 村 ミヤ子
用 務 員	泉 井 美 恵子
用 務 員	

〒650 神戸市中央区下山手通八―一
電話〇七八―三四一―五九九九

中の1枚はそれぞれのお寺で、寺報なりパンフレットにお使い下さい。題字の横は寺院名が押印できるようあけてあります。必要部数をお申し込み下さい。(事務局)

法

みのり

拝啓 閻魔大王さま

わたしの新春法話

いわ た 真雄
岩田 しん ゆう



明けましてお目出とうござい
す。本年もどうぞよろしく願
いいたします。

長年にわたって、くる年くる年、
このような言葉が無雑作にこだわ
りもなくいつていた。お正月には
いわねばならない言葉。たとえ儀
札的だといわれようと、使わねば
ならないような気持ちだった。
今年はこの当り前の言葉が気にな
り、目出たい、とはどのような
ことなのか、と考えさせられ、調
べて見た。いろいろの書物を開い
て見たが、如何にもという材料は
見当たらない。目出たいことは目出
たいのだと、いわざるを得ない。

祖師はどのようなお喜びをさ
れたのだろうか、考えて見たが、
そのようなお聖教を見たことがな
い。では蓮如上人はと思いをめぐ
らして見たが、それらしい文はな
い。しかし、蓮師は「念仏申し候
は、目出たき事にて候」とお正月
だから目出たきのお言葉ではなく
て、念々常称名こそ目出たきので
あると断言しておられる。

除夜の鐘一つ一つつき、一年を
終えて新しい年を迎えて、お念仏
相統の誓いこそ目出たきことでは
なからうか……。

一休禪師は「元日や冥土の旅の
一里塚、目出たくもあり、目出た
くもなし」と、人生をズバリとい
たいあげられている。
久し振りに古い本を見ていると、
とても面白いものを見つけた。ご
披露しましょう。

「奇々怪々身元調べ」

拝啓、陳者、当穢国娑婆郡浮世
村に姓不祥の人間にして、人外と
申者之有、人生僅かならぬ五十年
の長日月間、出没自在あらゆる罪
惡製造に腐心罷あり、自然六字の
名号税金を上納せず、誠に以て持
て餘し居り候処、天綱恢々疎にし
て漏さず、去る円融無碍元年、真
如満月唯一乗日、無碍法界無生
国不可思議郡寂滅村の住人、観自
在王菩薩の手下に捕われ、種々手
を代え品を替えて宥め賺し候へど
も、言を左右に託して一向に塚あ
かず、且、何処の馬の骨とも牛の
骨とも原籍さへ定かならざれば、

流石忍辱慈悲の世自在王菩薩も、
彼の盜賊猛々しく、又凶々しさに
呆れ返り申し、所謂、縁なき衆生
は度し難し。と、愛想を尽し候事
とて、別して我々凡夫に於ては、
彼の身の振方に一同頭を痛むる計
り、唯、難治致居り、所詮は盜賊
に追銭を持ち、本籍地へ送り還す
より外無之、就ては彼の人並以上
つむじ曲り居り、千枚張の鉄面皮
に腹黒き特長に徴すれば、多分は
御地方邊りの者かと感謝し候。御
照会候条、否や折返し御回答を煩
し度候。

祥月仏生日

浮世村人間想代

閻魔大王殿
知らぬが仏の半兵衛

右返事

拝復、御照介の趣き篤と吟味取
調べ候処、其者は、たしかに当地
獄国、釜中都血ノ池村の隣村で、
銀樹刀山村字賽の河原、苦番地に
鬼籍を有し、村内屈指の迷家に生
れ、死族に候処、何故にや、獄則
を犯して逃亡致し行方を暗まし候
得者、其当時より死方に手下を走

らし八方褌がりの咒咀を致し候と
同時に、死に物狂いと相成て、百
方を搜索中、貴照会によりて居所
判明せし上は邪か非ても早速引立
申し、此度獄則に照し嚴命を獄卒
に下し、僻借なく打擲致さすべく
候。尤も前非後悔とありて改心の
情願者なる者之有らば、懈怠なく
六字の名号税金を上納の暁きは、
特別穩愍の御取計を以て西方浄土
国、極楽郡蓮台村へ轉籍願上度く、
右は所謂、鬼の目にも涙。當国獄
則の除外例に之有、破格の恩典を
与ふる事に相成居候間、他事乍ら
御申添候。先は取あへず御回答候
也。

神無月閻夜 閻魔大王

知らぬが仏の半兵衛殿

最近時代の流れといましよう
か、一か寺の住職でありながら、
祖師の教義を無視した行動が平気
で行われている。もつてのほか、
大いに反省をいたしましょう。

一、車にノ繩をつけて得意顔の
者

一、車の中にお守りをさげている
者

一、表に角松を立てている者
一、喪中につき年賀状を遠慮さ
して いただきませう

等々、浄土真宗として本当にお
恥かしい限りではありませんまいか。
新しく迎えた新年こそ、信心正因、
称名報恩の日ぐらしにこれこそ目
出たきことと信じます。

(播磨中組正願寺)

よき人のことばは
目ざめを与え
永遠に新たな法の
泉となる



朝日 朝定満月日(北海道)

The words of a true teacher waken us
and become a wellspring of Dharma
that is eternally fresh.



眞宗教団連合

西本願寺 東本願寺 専修寺 弘光寺 興正寺 錦織寺 毫誓寺 誠照寺 専照寺 証誠寺

今、よき人の言葉

ふじえん ぎょうしん
藤栄 行信

蓮如上人語録の中に、
「心得たと思うは、心得ぬなり、心得ぬと思うは、心得たるなり」

のお言葉がある。浄土真宗の教えを学び、伝えることを日常としている私達にとって、最も注意を促して下さる、お言葉である。

御聖教のお言葉を理解するため、種々の参考書等を読み、自分なりに理解した、すなわち心得たと思う時から、実はもう大丈夫と安心し、自己満足におちいり、言葉の持つ生命を失わ

せしめるといふ誤りを繰り返しているのではないか。最近とくに反省させられている。

「理解した」という理解をどんな風に言葉に表現するかは、表現してみなければわからないのは当然である。如来の救いに出あうこととの表現は、まことに困難であり、言葉との格闘が始まり、苦しみを感ずる時が多い。そんな時、安易に人の表現や言葉を使ってしまうものだ。それで一応気が楽になり、後からもその習

慣が身につく、楽な方へと。一人一人が、この楽の方へと走っていく時、言葉の平均化、また固定化が生じて押しつけの態度が生まれる。よき人の言葉は、そうした私達の墮落性を限りなく照らし、導くものである。今日、基幹運動が進められる中で、多くの問題が指摘されている。

「業」「神」「平和」などの教学上の問題である。かつてどうこれらの問題を言葉にし、伝えようとしてきたのであろうか。歴史的制

約(封建制)の中でといてしまえばそれまでではあるが、どれほど私達は、誤った理解を心得たとしてきたであろうか。その責任は重い。

先哲や妙好人の言葉に感動することであるが、その感動が自己陶醉に終わらないか?よき人の言葉とは、に私達自身の営みを照らし、指針となつて下さるものである。——心得ぬと思うは、心得たるなり——

(淡路組・宣徳寺)

お仏壇・お仏具のお求めは、創業180余年の浜屋へ

大切にしたい日本の心

やすらぎのある生活
浜屋の願いです。

やすらぎの世界を創る



浜屋

- 堺店 61-2211代
- 鳳環寺店 51-2211代
- 藤井寺店 54-2211代
- 駒布川店 699-2211代
- 住道店 783-2211代
- 高茨店 74-8116代
- 江池店 29-2211代
- 伊丹店 83-2211代
- 西神店 22-2211代
- 新明店 388-2211代
- 加古店 53-2211代
- 高姫店 75-2211代
- 赤直店 413-2211代
- 大坂店 51-2211代
- 門真店 371-2211代
- 深田店 621-2211代
- 土山店 927-2211代
- 御幸店 37-2211代
- 御幸店 26-2211代
- 御幸店 43-2211代
- 御幸店 76-1316代
- 御幸店 62-5171代
- 御幸店 5-2011代
- 御幸店 93-2211代
- 御幸店 906-5511代
- 御幸店 97-2211代
- 御幸店 22-2211代